



## イオンモール大阪ドームシティ、31日開業

【大阪】イオンは31日、大阪市西区にイオンモール大阪ドームシティを開業する。核店舗となる「イオン大阪ドームシティ店」と126の専門店を構成。「いいこと、出会える。いくたび」ときめ、「キキフード」あらゆる世代が気軽に楽しく憩えるショッピングモールを目指す。

### イオン最大級、対面鮮魚売場 大阪本場から新鮮・豊富な魚種

「対面鮮魚売場で勝負していく」イメージ図(外観)

「対面鮮魚売場で勝負していく」イメージ図(外観) スーパー・量販店など水産物販売は苦戦を強いられる中では、小柄だ集まりそだた

大きな特徴は、1階のフロアを食品関連をメインとし、イオン大阪ドームシティ店と専門店が一体となって生鮮品からグルメまで幅広く「食」を提案する点。

特に、イオン大阪ドームシティ店の水産コーナーでは、全国のイオンでも最大級となる7.5mを超える対面鮮魚売場を展開する。

厚生労働省認定の「鮮魚士」と同社内資格の「お魚アドバイザー」が来店客の要望に応じて調理を承るほか、調理方法を提案するなど、魚食文化の振興にも努めていく。

大阪中央卸売市場本場まで、車で5分ほどという立地を最大限に生かして、新鮮で豊富な魚種を毎日直送販売していくこととしている。

大阪ではキタやミナミという立地を最大限に生かして、百貨店をはじめとした商業施設が競って生じていくが、イオンリテール(株)の合田正典執行役員事業本部長は、「モーションの高さに注目が

が、足元の日々の暮らしに対応した」と語り、ミナミやキタの客層とはターゲットを違えている点を強調した。

イオンモール(株)は平成27年9月に神戸市中央卸売市場本場西側跡地での開業を公表しており、中央市場直送の生鮮食品を購入できるゾーンを設けるなど計画。今回の「食」を提案していくコンセプトとの類似性も感じら

られているところが多いが、イオンリテール(株)の川本聡イオン大阪ドームシティ店店長は「対面鮮魚の販売に注力する。あえて勝負していくこと」と語った。

同モールは、京セラドーム大阪の北東に位置し、阪神電鉄なんば線「ドーム前」駅と地下で直結。大阪市営地下鉄長堀鶴見緑地線「ドーム前千代崎」駅にも地下連絡通路で結ばれるなど、公共交通機関の利用が非常に便利。

敷地面積約2万8000平方メートル、商業施設面積約3万4000平方メートル。同社では第一次商圏と承るほか、半径3km、約20万人を想定。年間来場者1000万人を目標とする。

日刊水産経済新聞 5月7日

## 16年連続でマイナス

### 異常気象で季節商品低迷

12年度の全国チェーンストア売上高は、店舗調整後の前年同期比2.5%減の1兆4631億円にとどまり、16年連続でマイナスとなった。日本チェーンストア協会が、会員57社・7947店の売上を集計した。

12年度は、生活者の節約志向が続く中、春先の低気温、秋の残暑などの天候不順が、季節商品の動きに影響を与えた。食料品は、テレビ報道後にアーモンド、トマトジュース、ヨーグルトが人気となった。農産品は、カット野菜が好調に推移した。

12年度は、生活者の節約志向が続く中、春先の低気温、秋の残暑などの天候不順が、季節商品の動きに影響を与えた。食料品は、テレビ報道後にアーモンド、トマトジュース、ヨーグルトが人気となった。農産品は、カット野菜が好調に推移した。

### 12年度のチェーンストア売上高

食料品の売上高は、7兆6926億円(2.6%減)。農産(2.0%減)、畜産(3.3%減)、水産(4.4%減)、総菜(2.5%減)の全部門で前年を下回った。

3月の売上高は、1兆447億円(1.7%増)となり、13カ月ぶりにプラスとなった。相場の安の農産品は不調だったが、節句、花見関連商品、花粉・PM2.5対策関連商品が好調に推移した。

食料品の売上高は、6457億円(0.3%減)。農産(4.3%減)、水産(1.7%減)は減少し、畜産は前年並み、総菜(2.3%

食品市場新聞 4月23日

